

【授業科目】ジェンダー論

| 担当教員 | 開講年次 | 選択必修 | 単位数 | 時間数 | 授業形態 | オフィスアワー | 教職員への授業公開 |
|------------------------|---|------|-----|-------------|-----------|----------|------------------|
| 松井 真理子 | 1年次 後期 | 選択 | 1 | 15 | 講義 | 巻末 掲載 | 可 |
| 授業概要 (内容と進め方) | <p>授業概要/ジェンダーの基礎概念からスタートし、家庭、地域、職場など多様な側面で現れるジェンダーについて、授業時に配布するプリントを配布して講義を行う。また、学生の理解を促進するため、さまざまな映像による事例紹介等も行う。</p> <p>社会通念や慣習の中でのジェンダーが、個人としての生きにくさにつながっていること、ジェンダーが社会構造的な課題であることについて理解を深めるため、ジェンダーの課題はどのように克服されるべきか、その展望についても示していきたい。</p> <p>課題に対するフィードバック方法/毎回提出する小レポートでは、授業内容に関する質問を求めることとし、次の授業で全員に対してそれに回答することで、全体の理解を深めることとする。</p> | | | | | | |
| 授業の位置づけ | <p>本学のディプロマ・ポリシー②「人間として自己の成長に努め、社会人として広い見識と確かな倫理観を持ち、臨床検査の対象となる人々に愛情豊かに共感をもって接することができる。」の達成に寄与している。</p> | | | | | | |
| 到達目標 (履修者が到達すべき目標) | <p>① ジェンダーとは何か、基本概念が説明できる。 ② 社会の中にあるジェンダーに気づき、説明できる。 ③ 現代社会でなぜ男女共同参画が重要なのか、説明することができる。 ④ 性別ではなく、個人を基礎とする考え方に立って行動できる。</p> | | | | | | |
| 時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言 | <p>第1～8回事前学習：テーマに関して、インターネット等で検索し読んでおく。(各90分) 事後学習：新聞に掲載されている関連記事や関連する図書などを読む。(各150分)</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p> | | | | | | |
| 授業計画 | <p>第1回 ジェンダーの基礎理解</p> <p>第2回 男女平等の歴史</p> <p>第3回 労働とジェンダー</p> <p>第4回 ワーク・ライフ・バランス</p> <p>第5回 超少子化とジェンダー</p> <p>第6回 女性への暴力</p> <p>第7回 政策決定への参加</p> <p>第8回 経済発展とジェンダー</p> | | | | | | <p>全て 松井</p> |
| 評価方法 評価基準 | <p>授業時の小レポート 40% 定期試験 60%</p> | | | | | | |
| 教科書 | <p>毎回講義時に資料を配布します。</p> | | | <p>参考書等</p> | <p>なし</p> | | |
| 学生へのメッセージ | <p>ジェンダーは現代の少子化をはじめ、社会現象を理解する上で、不可欠といっているほど重要な視点です。近年特に政府は「女性の活躍」を進めようとしており、この背景にある社会構造に目を向けていただきたいと考えています。</p> | | | | | | |